



大和商工会議所
創立30周年

大和をもっと
素敵にデザイン

Buy Local One Yamato

大和市産業活性化ビジョン

大和をもっと素敵にデザイン
～夢と希望と可能性に溢れた大和市～



2024年5月15日
大和商工会議所

【目次】

はじめに1
1. ビジョン策定の背景1
2. ビジョンの実現に向けて2
3. 大和市産業活性化ビジョン3
4. 大和市の特徴4
5. 大和市の地域経済が持続可能となるために5
6. 検討の経緯・提言書策定特別委員会委員名簿6

はじめに

大和市は神奈川県中央部に位置し、古来より交通の要衝として多くの人々が往来し栄えてきました。特に江戸時代には大山詣と東海道の裏街道として利用された矢倉沢往還(大山街道)の宿場(下鶴間宿)として発展しました。

現代においても、交通の利便性は本市最大の強みで、鉄道3線や国道246号、467号などの幹線道路、東名高速道路横浜町田IC、綾瀬スマートIC等の交通網が整備され、横浜や湘南地区、箱根、丹沢などの県内主要観光地と今後開発が期待される上瀬谷との結節点として多くのポテンシャルを持っています。

交通の利便性から市内8駅の1km圏内には24万市民の約8割が居住し、各駅を中心に経済圏が形成されています。本市の比較的平坦な地形により徒歩や自転車での移動が容易な特徴を生かし、パリ市長が提唱した15minutes Cityのようなウォーカブルでカーボンニュートラルなまちづくりを推進することで、大和市ならではの賑わいを生み出しことができます。

さらに交通利便性と市域全体の地盤の良さ、自然災害の少なさを生かして、クリエイティブかつ高付加価値な産業を呼び込んで、積極的にヒト・モノ・カネ・情報等が集まる地域経済循環構造にデザイン(やはり・デザイン)する将来都市像を大和市産業活性化ビジョンで示し、まちづくりと産業振興の相互連携によって「夢と希望と可能性に溢れた大和市」を目指します。

1. ビジョン策定の背景

大和商工会議所は令和6年4月で創立30周年を迎えました。設立以来「商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資し、もってわが国商工業の発展に寄与する」を目的として、幅広い公共性を持ちながら各種事業に取り組んでまいりました。

近年では、小規模事業者支援法の改正により、令和3年に大和市と共に経営発達支援計画を策定し、伴走型支援による企業の発展支援に重点を置き事業を推進してまいりました。コロナ禍においても給付金や補助金の申請支援や商品券事業は中小、小規模企業者の事業継続に大いに役立ったものと自負しております。

アフターコロナにおいても、市内中小、小規模企業者を取り巻く事業環境は、エネルギー価格の高騰や、資材の高騰、人手不足に加え、物価高騰による消費の低迷など様々な要因で依然として厳しい状況が続いております。

当所では、特別委員会を設置し、コロナ禍で棄損した市内産業の継続と活性化を支援し、サステナブルなものとするために、大和市の強みを抽出し、それを生かした産業活性化策について検討を重ね、大和市産業活性化ビジョンを作成しました。

大和市産業の活性化のため、大和市産業活性化ビジョンを大和市に提言し、行政と商工会議所が一体となって市内中小、小規模企業者を支援します。

2. ビジョンの実現に向けて

大和商工会議所では「夢と希望と可能性に溢れた大和市」の将来都市像である大和市産業活性化ビジョンを作成しました。このビジョンを実現するために大和市に果たして欲しい役割等を提言いたします。

大和商工会議所は、さまざまな支援機関、行政機関等とも密接に連携しながら市内中小・小規模企業者を支援し地域振興に取り組みます。大和市は、産業活性化のため、必要な施策を講じていただき、伴に大和市産業活性化ビジョンの実現に向けて取り組んでいただきたく存じます。

「夢と希望と可能性に溢れた大和市」の将来都市像

- 1. 大和をもっと素敵にデザインしシビックプライド*を醸成**
～地域経済循環が強くなり域外収支が改善、シビックプライドが醸成～
- 2. ヒト・モノ・カネ・情報が集まる地域経済循環にデザイン**
～市内主要駅の整備により駅周辺が目的地化し消費拡大と誘客機会が増大～
- 3. カーボンニュートラルへの取組み支援によるクリエイティブかつ高付加価値の産業創出**
～若い起業家や創業者が増加し雇用者も増加、労働生産性や付加価値が向上～
- 4. ウォーカブル*なまちづくりで賑わい創出**
～まちの魅力が向上し消費拡大、域外からの移住者増加、魅力的な店舗の育成・進出～
- 5. まちづくりと産業振興の相互連携で活力や魅力を創出**
～まちづくりに「夢と希望と可能性」を感じられることで住み(続け)たい、働き(続け)たいヒトが増え活力と魅力が持続的に創出～

*シビックプライドは「地域への誇りと愛着」を表す言葉。自分自身が地域の構成員であると自覚し、さらに街を良くしようとする意思が含まれる。

*ウォーカブルは「歩きやすい・歩きたくなる・歩いて暮らせる」を表す言葉。

3. 大和市産業活性化ビジョン

産業の振興

(商業・サービス業)

～経済の好循環の推進力である地域企業の持続的な成長につながる支援～

- 2027国際園芸博覧会およびKAMISEYA PARK(仮称)を見据えた誘客体制整備
- 地域を代表する玄関口である主要駅にふさわしい地域の需要、消費喚起につながる吸引力ある商業施設の重点整備
- 商店街の空店舗へのブランド力ある企業の誘致及び地元企業育成
- 商店街の空店舗へIT関連産業の誘致につながるデジタルインフラの構築
- 地域デザインの司令塔となる組織体の創設
- 用途地域見直しによる駅周辺開発の促進
- イベントによる駅周辺の賑わいの創出
- 大和市商業戦略計画の着実な推進

(工業・ものづくり関係)

～製造業が持続的に成長・発展するための環境整備～

- 大和市の産業競争力強化に資する企業等を対象とした操業環境整備
- 工場立地の推進に向けた用途地域拡充などの規制緩和・環境整備
- 神奈川県内で選ばれる地域となるため、ものづくり企業への支援制度の拡充
- 大和市独自の未利用地・空工場等の情報提供、ビジネスマッチングの支援
- 製造業の柱となる研究開発や設計研究部門の誘致
- カーボンニュートラルへの取組み支援

起業・創業支援

～地域資源を活用した大和市ならではのビジネス創出や社会課題の解決に資する起業・創業の支援～

- 商店街の空き店舗や空き家など活用した起業・創業支援
- 社会的課題や地域住民ニーズの課題解決に資する企業の活用
- 創業初期のバックオフィス業務支援体制の整備
- 成長段階に応じた伴走支援、支援機関などの環境整備

街づくり・交通体系

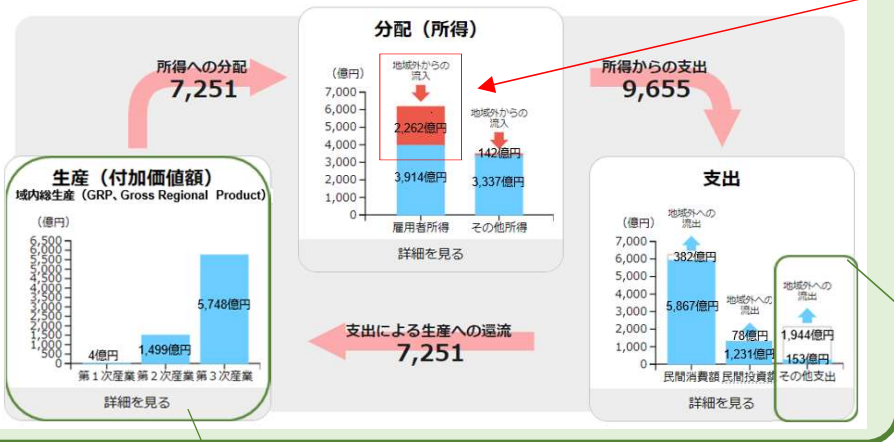
～住みたい・住み続けたい・働き続けたい環境形成につながる支援～

- 市内各駅の経済圏で職・住接近のウォークブルなまちづくりの推進
- カーボンニュートラルなまちづくりの推進
- コンベンション機能があるホテルまたはコンベンション施設の誘致
- 航空法による高さ制限の緩和を求める活動の推進
- 空中権が制限される地域での地下空間利用促進の検討
- 厚木航空基地の民間航空機乗り入れに際する利便性の調査研究の推進
- 上瀬谷に予定されているスマートICへのアクセス道路の整備
- 県内主要観光地と今後開発が期待される上瀬谷との結節点としての整備
- 市内交通渋滞解消による更なる交通利便性の向上
- 公共交通サービスなどの充実による市民の移動の快適性向上
- 厚木航空基地の二次物資集積拠点化により災害時の物資供給の確保

4. 大和市の特徴

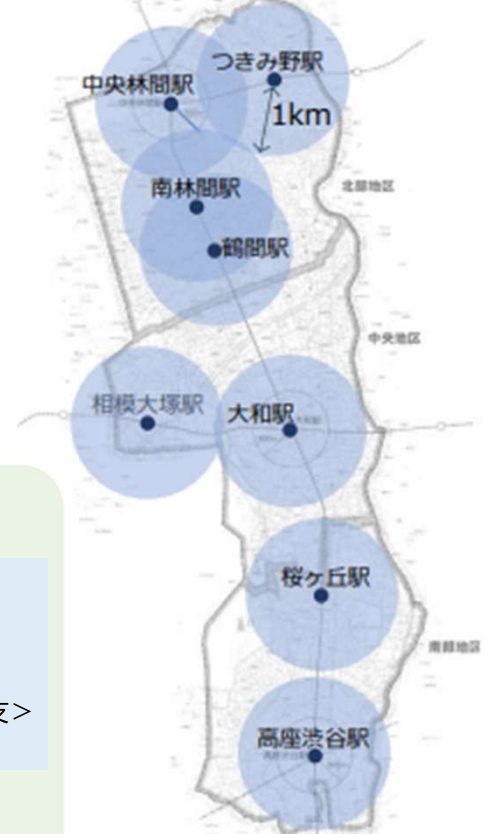
- 交通基盤が整い、人口は当面増加すると見込まれており、人口密度は高い(8,709人/km²、県内第2位)。
- 住民が域外に出かけて給与を持って帰ることから雇用者所得が流入(ベッドタウン型の地域経済循環)。
- 一部製造業の集積があり、域外から所得を稼ぐ。一方で、生活と関連が深いサービス業などの供給に限界があり、その他支出(域際収支)は、大幅な赤字(所得流出)。

大和市の地域経済循環図(2018年)

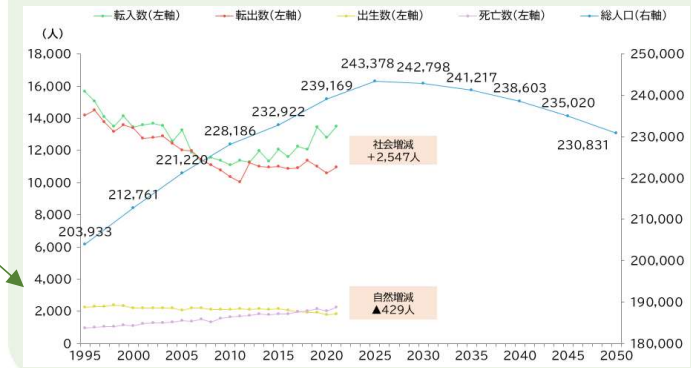


雇用者所得流入

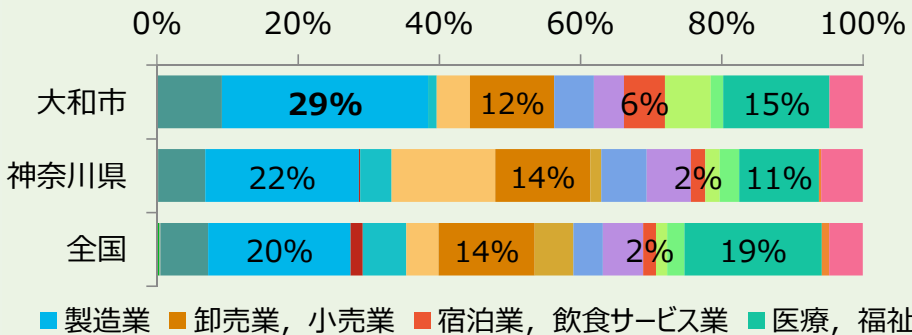
大和市内の駅勢圏 (半径1km)



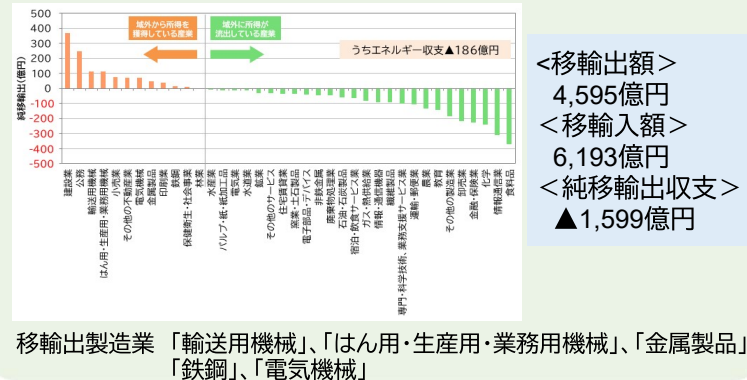
人口推移



産業大分類別の付加価値構成比(2020年)



産業別純移輸出収支額(2018年)

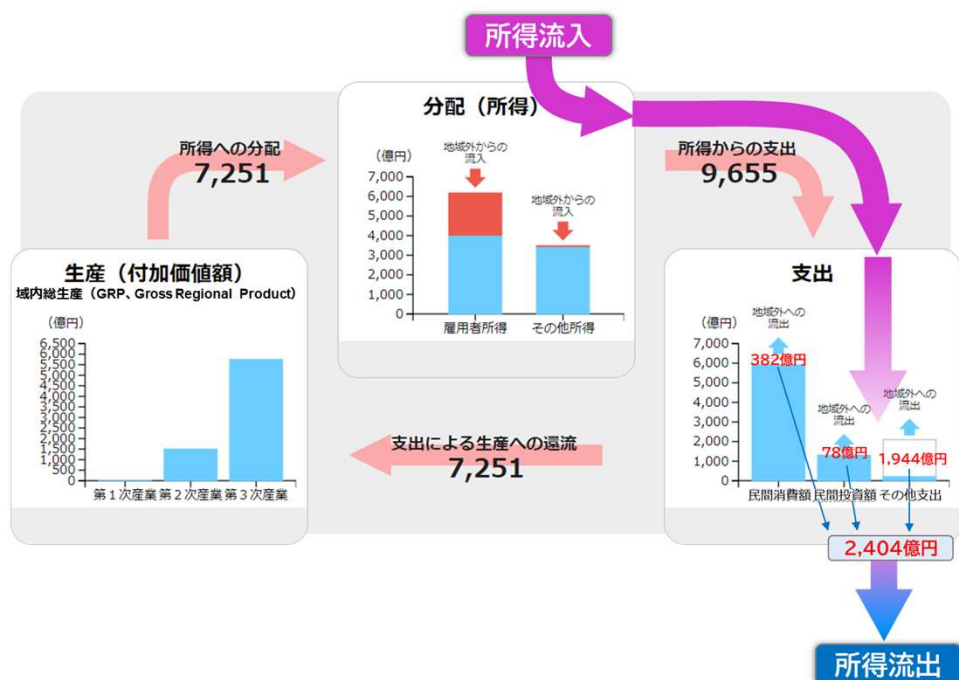


鉄道駅から1km圏内に
市域の約71%、市民の約80%

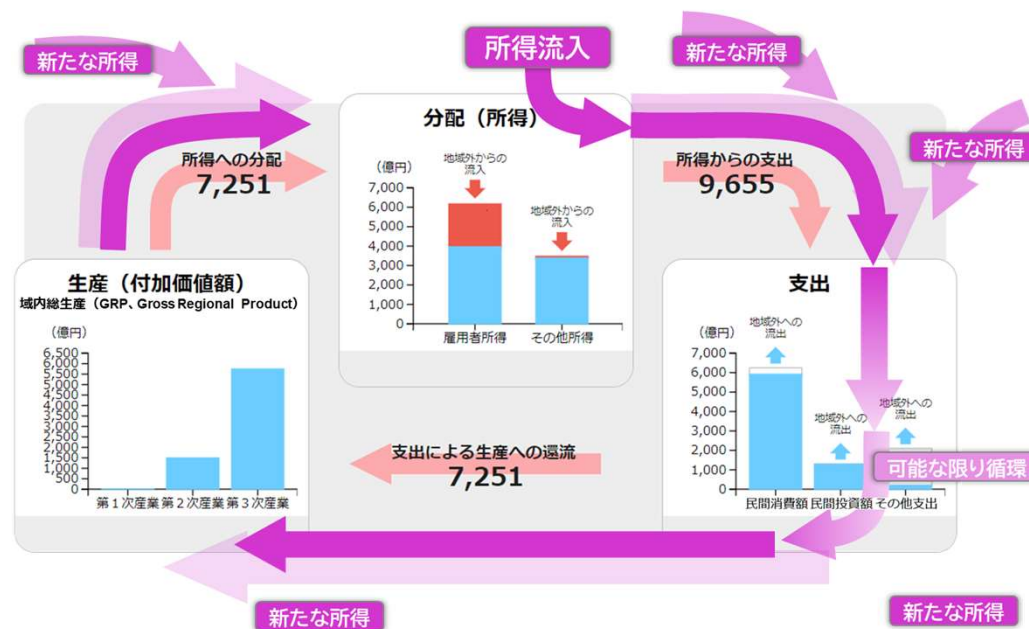
5. 大和市の地域経済が持続可能となるために

- 大和市の地域経済循環は、現状、「分配」段階の雇用者所得において、大きく所得が流入しているが、地域の供給能力が追い付かず、「支出」段階のその他支出(域際収支)で、所得が大きく流出している構造。
- 持続可能な地域経済を構築するためには、現状の所得流入を維持・拡大しつつ、可能な限り所得を地域内で循環させるとともに、それがまた新たな所得の流入を誘発するよう、地域のあり方・所得の流れをデザインする必要がある。
- そのため、市内に駅が8つある等の特徴を生かして地域内の産業活性化を図るため、駅から15分圏内にあらゆる都市機能が存在するパリ市長が提唱した15MinutesCityのようなウォークアブルでカーボンニュートラルなまちづくり実現が求められる

現状の地域経済循環



目指す地域経済循環のイメージ



6. 検討の経緯

提言書を作成するため、大和商工会議所内に「提言書策定特別委員会」を設置し、データ等に基づく大和市の現状把握等を踏まえ、商工会議所が自ら行動する「商工会議所ビジョン」(5年計画)、夢と希望と可能性に溢れた大和市の将来像を示した「大和市産業活性化ビジョン」、そして提言書の検討・策定を行いました。委員会では、2023年6月から2024年5月まで計11回の会議を開催し、データに基づく大和市の現状把握、大和商工会議所として取り組む事業の検討等を行いました。

< 提言書策定特別委員会の開催 >

第1回	2023年6月7日	第6回	2023年12月6日
第2回	2023年7月5日	第7回	2024年1月17日
第3回	2023年9月6日	第8回	2024年2月7日
第4回	2023年10月4日	第9回	2024年3月6日
第5回	2023年11月1日	第10回	2024年4月3日
		第11回	2024年5月15日

※各部会等においても、積極的に意見・情報交換を実施

【大和商工会議所 提言書策定特別委員会 委員名簿】

委員長	本田 誠一	(会 頭)
副委員長	長谷川 賢太郎	(副会頭)
//	片倉 忠雄	(副会頭)
//	橋本 日吉	(副会頭)
//	新村 千成	(副会頭 兼 運輸倉庫業部会長)
委員	鳴海 智	(専務理事)
//	宇井 崇	(商業部会長)
//	浅野 雄一郎	(工業部会長)
//	赤澤 多加志	(建設業部会長)
//	石見 邦夫	(サービス業部会長)
//	牧口 智洋	(飲食業部会長)
//	河野 正裕	(金融保険業部会長)
//	栗城 健	(不動産業部会長)
//	柴田 健介	(青年部会長)
//	岡本 幸子	(女性会会長)
//	岩崎 清昭	(支部長会会長)
アドバイザー	鵜殿 裕	(株)日本経済研究所

※委員変更は以下の通り

2023年10月 塚田順朗 委員より河野正裕 委員に変更 (金融保険業部会)

2024年4月 小嶋隆 委員より柴田健介 委員に変更 (青年部)